

デイホーム通信

各地区のデイホーム
を紹介しています！



(国見地区社会福祉協議会)



「今日は宝引きついでよー」

みなさんは「宝引き」をご存知ですか？「宝引き」は、昔はお寺のお講様などの後で行った遊びです。まず人数分の紐を用意して、その紐は、2〜3mのロープのような丈夫な紐で参加人数に合わせて（10人ならば2〜3個）『ごんご』を先に付けます。『ごんご』とは、穴の開いた銅貨に紐を通してお数珠みたいな形をしています。親が『ごんご』のある側の紐の端を手元で束ね、もう一方の端は広げてみんなは紐の端を取ります。紐をたぐっていったら『ごんご』が付いていれば大当たりです。報奨金がもらえますが、デイホームでは飴玉です。親の手さばきの鮮やかさ、みんななどの掛け合いの面白さで伝統遊びも宴だけなわの盛り上がりとなります。とても単純な遊びですが、遊び上手な方がたくさんおられ、日頃の「あこ痛い、ここ痛い」もすっかり忘れてとても楽しいひとときを過ごしました。

国見地区 専任職員 長谷川 美枝

(東郷地区社会福祉協議会)



「音楽と映像を使ったメニューも喜ばれています！」

平成15年の東郷地区の自治会型デイホーム発足時に、地区のデイホームを見学させてもらいました。その際、会場でカラオケセットを使っておられるのを見て、ぜひ東郷地区のデイホームでも取り入れてみたいと思い、早速、メニューに取り入れ、現在も好評を得ています。

最近ではプロジェクターや大型簡易スクリーンも使用しながら、歌謡曲、唱歌などを毎回3〜4曲全員で歌い、自慢の喉を披露し、懐かしい気持ちになり、声を出すことで、気持ちもすっきりとします。

歌以外にも、福井水害や福井地震などの記録映像を見て昔の出来事に参加者の皆さんと話し出してお話し、隣り近所の日頃からの交流がいざという時に大事だということ確認し合っています。また、福井県も薦めている「笑いと健康」の一環として、桂文珍の落語、横山やすし西川きよしの漫才、そして、綾小路きみまろの漫才で大きな声で笑い、参加者に喜ばれています。

東郷地区 専任職員 北川 照男